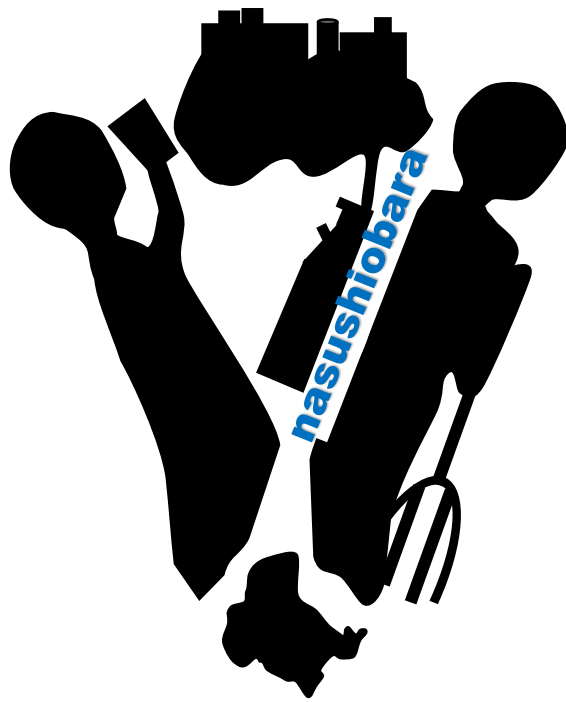


ミルクタウン戦略

～ミルクでつなぐまちづくり～



令和5（2023）年3月
那須塩原市

ミルクタウン戦略 目次

はじめに	1
戦略の位置付け	1
I 地域活性化ビジョン 編 ～「未来へつなぐ酪農の魅力」～	
本市における酪農の現状	3
酪農の将来推計	7
本市における酪農の目指す方向	8
1 酪農に対する意識	8
2 酪農から生み出される魅力	10
3 酪農を主軸とする地域活性化の方向性	12
II 戦略 編 ～「酪農を主軸とする地域活性化への取組」～	
基本方針	14
1 基本的な考え方	14
2 基本目標	15
3 戦略策定に当たっての基本的な視点	16
基本目標1 仲間とつながる	19
基本目標2 魅せるものをつくる	21
基本目標3 魅せる場をつくる	23
基本目標4 安心して働ける場をつくる	25
戦略の実効性を高めるための取組	27
III 資料 編	
ミルクタウン推進連絡会委員と策定経過	30
前戦略の実施内容	32

はじめに

那須塩原市では、平成27（2015）年4月に施行した「那須塩原市牛乳等による地域活性化推進条例」（通称：牛乳で乾杯条例）の目的を推進するため、平成29（2017）年3月に「ミルクタウン戦略」を策定し、生乳から作られる牛乳や乳製品（以下「牛乳・乳製品」という。）を生かし、酪農のみならず、地域全体の活性化を推進してきました。

その結果、生乳生産本州一のまち那須塩原として、農林水産省の統計における市町村別農業産出額（推計）においては、令和元（2019）年の生乳産出額が全国3位、令和2（2020）年においては全国2位となりました。

一方、酪農をめぐる情勢として、経営者の高齢化、後継者不足による離農が進み、酪農戸数が減少しています。

意欲ある担い手による規模拡大やメガファームの参入により一戸当たりの飼養頭数、生乳生産量は増加していますが、このまま酪農戸数が減少した場合生乳産出額全国2位を誇る酪農基盤を維持することが難しくなり、酪農の衰退、地域の衰退にも影響を及ぼすことが懸念されます。

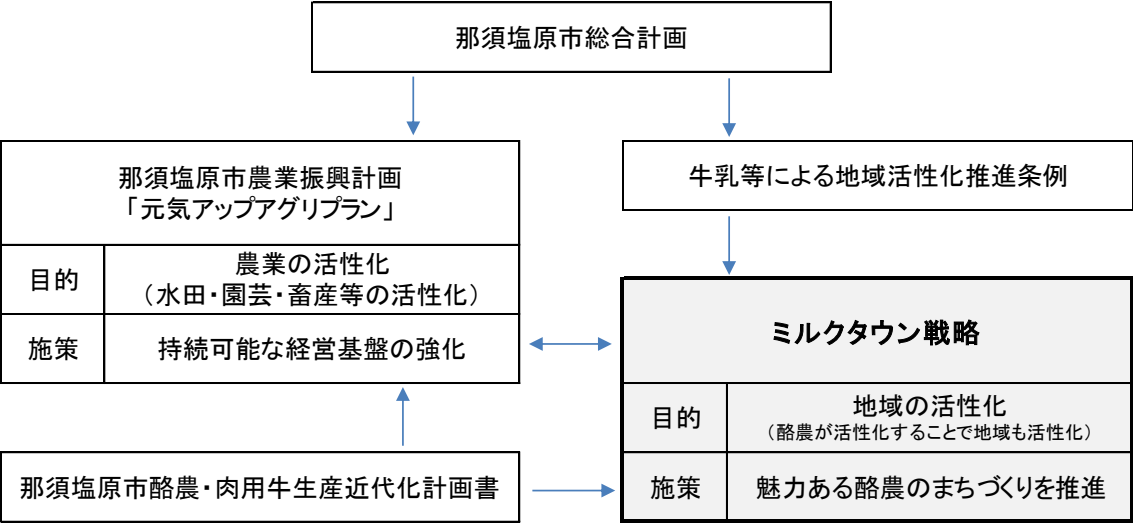
また、燃料・飼料等の価格高騰、新型コロナウイルス感染症の長期化等、新たな脅威による影響も懸念されます。

これらのことを踏まえ、市民、生産者、事業者、市が協働し、更なる魅力ある酪農のまちづくりを推進するため、「ミルクタウン戦略」を策定します。

なお、今後の社会情勢などの変化に対応した適切なプランの推進を図るため、必要に応じて計画の見直しを行うものとします。

戦略の位置付け

那須塩原市総合計画、牛乳で乾杯条例を推進する戦略として位置付けます。



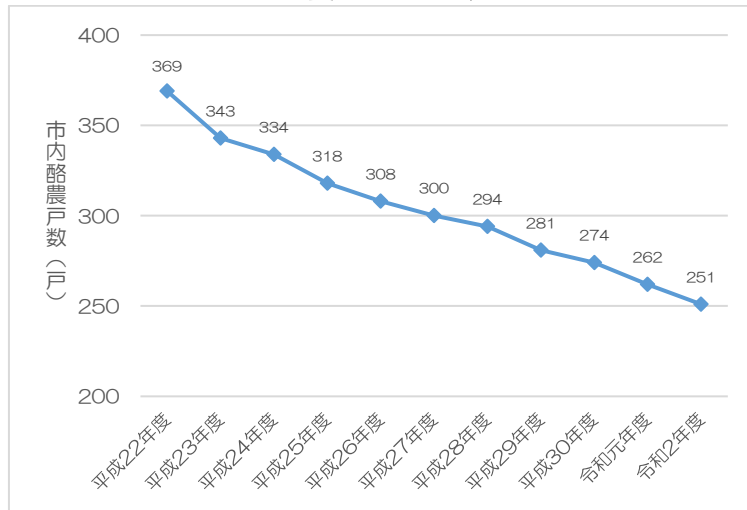
I 地域活性化ビジョン 編
～「未来へつなぐ酪農の魅力」～

本市における酪農の現状

(1) 酪農戸数

担い手の高齢化や離農により全国的に酪農戸数が減少している中、本市でも、平成22（2010）年度から令和2（2020）年度までの11年間で118戸（約3割）が減少しています。今後も、担い手の更なる高齢化等により、酪農戸数の減少が予想されます。

酪農戸数の推移

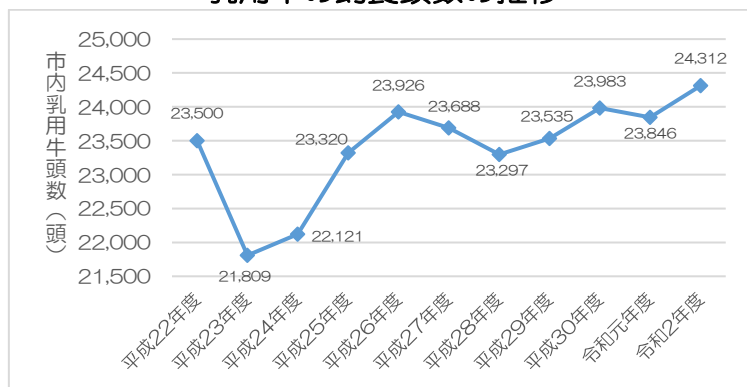


家畜伝染病予防法に基づく定期報告値（栃木県）による。

(2) 飼養頭数

平成23（2011）年度には東日本大震災の影響により、乳用牛の飼養頭数が減少していますが、平成25（2013）年度には震災前の水準まで回復し、増加傾向にあります。

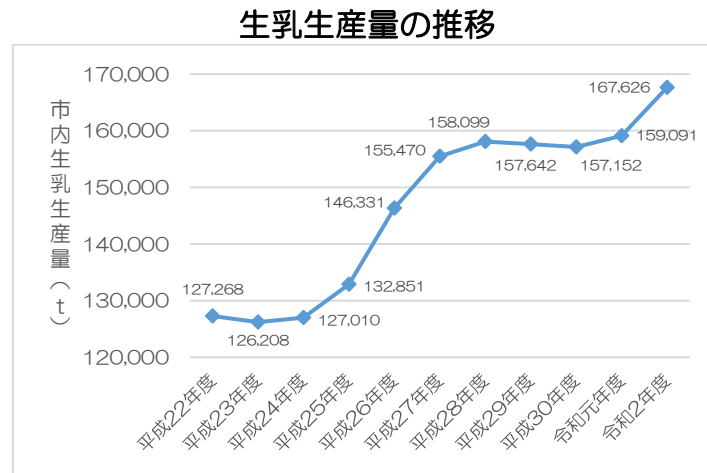
乳用牛の飼養頭数の推移



家畜伝染病予防法に基づく定期報告値（栃木県）による。

(3) 生乳生産量

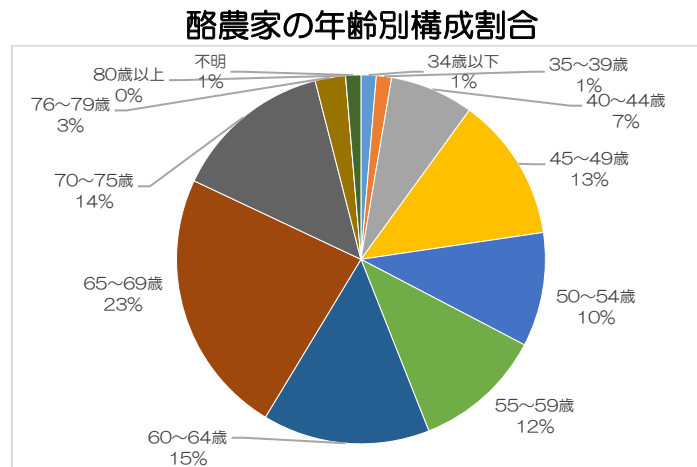
平成24（2012）年度までほぼ横ばいでしたが、大規模酪農家による飼養頭数の増加により、平成25（2013）年度以降は増加傾向にあります。



那須塩原市農務畜産課調べ

(4) 経営者の年齢構成

アンケートに回答した酪農家の55%が60歳以上であり、このまま後継者となる担い手が見つからなければ、10年後の令和13（2031）年には77%が60歳以上となる見込みです。



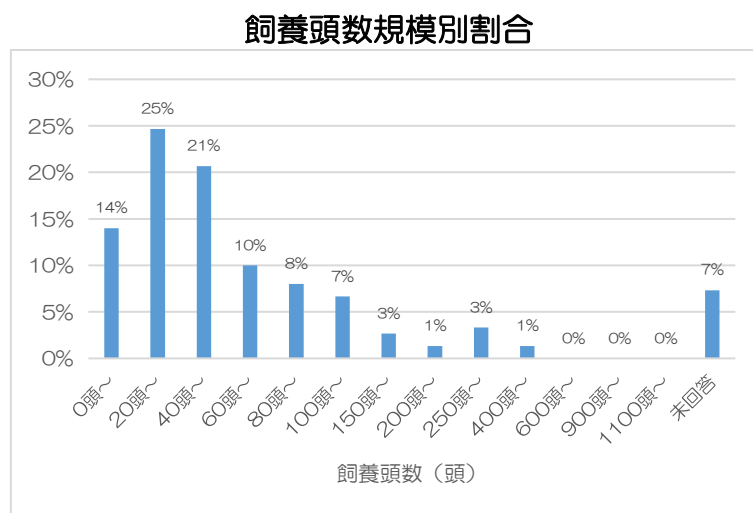
R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）※1による。

※1 R3農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）
 那須塩原市内に30a以上の農地を所有する人又は法人を対象に、農業の実態、農業の現状に対する意識や意向を把握し、市の施策検討の参考とするため実施したものです。回答があった市内農業経営者1,921名から酪農経営者150名を抽出しております。
 酪農経営者150名/251名（R3.2月家畜伝染病予防法第12条の4第1項に基づく定期報告）

(5) 経営状況

① 飼養頭数規模

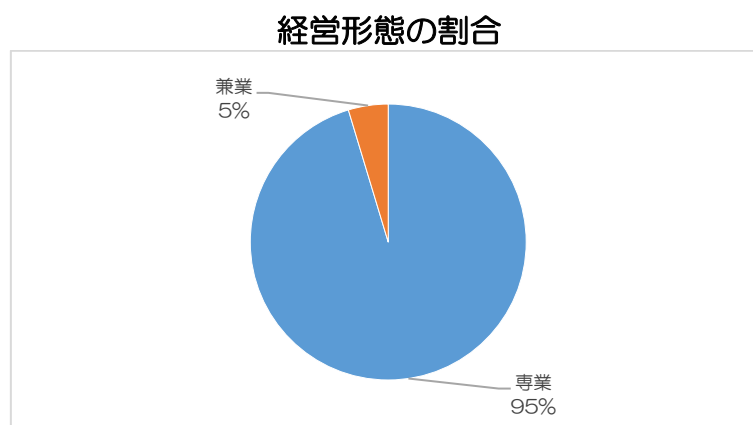
飼養頭数40頭未満が39%、40頭以上80頭未満が31%で、80頭以上は23%となっており、家族経営による小規模酪農家が多い状況にあります。



R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

② 専業、兼業の割合

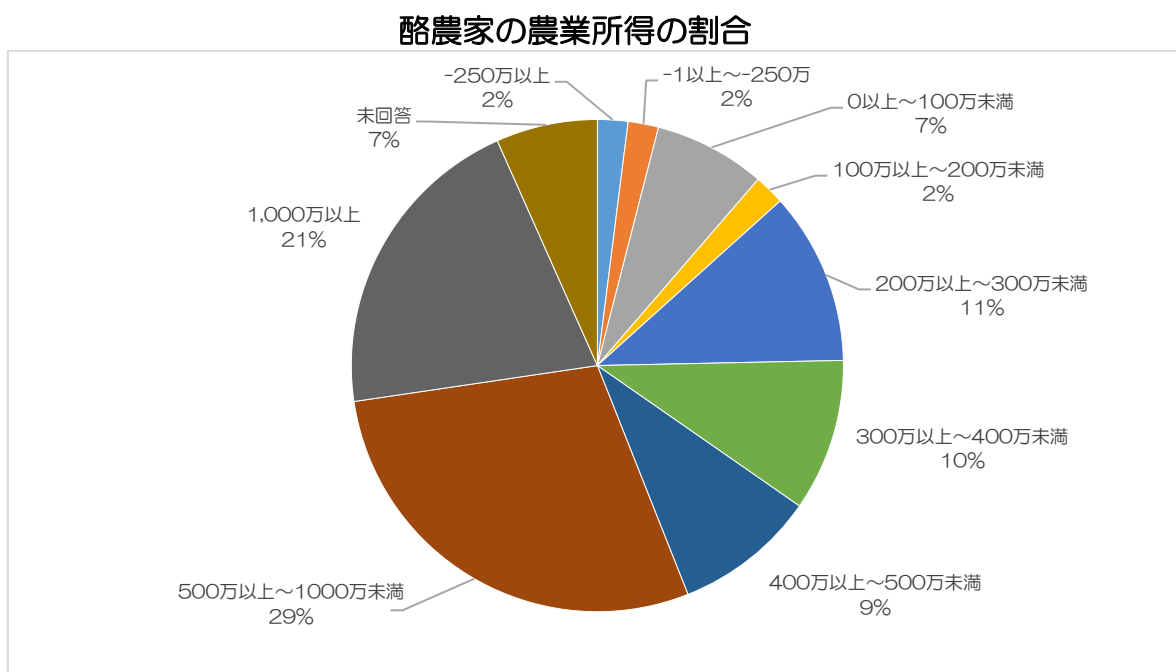
アンケートに回答した酪農家の95%は専業農家であり、市内の全農家の専業農家割合（37%）に比べると圧倒的に高い状況にあります。



R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

(6) 農業所得（農業収入－経費）

酪農家の50%が500万円以上の農業所得を得ており、21%の酪農家は1,000万円以上の農業所得を得ている状況となっています。市内の全農家に対する酪農家の割合では、500万円以上1,000万円未満が37%、1,000万円以上が51%となっており、農業所得が高くなるほど酪農家の占める割合が多い状況にあります。



R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

全農家に対する酪農家の割合（農業所得別）

所得区分	酪農経営体数（戸）	全体経営体数（戸）	酪農/全体（%）
-250万円未満	3	181	1.7%
-250万円以上～-1万円未満	3	251	1.2%
0円以上～100万円未満	11	674	1.6%
100万円以上～200万円未満	3	145	2.1%
200万円以上～300万円未満	17	119	14.3%
300万円以上～400万円未満	15	61	24.6%
400万円以上～500万円未満	14	60	23.3%
500万円以上～1000万円未満	43	115	37.4%
1,000万円以上	31	61	50.8%
未回答	10	254	3.9%
合計	150	1,921	

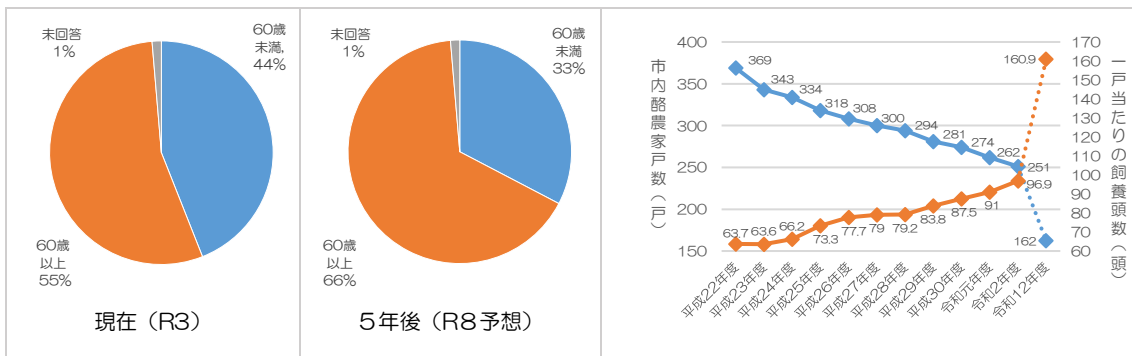
R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

酪農の将来推計

(1) 酪農戸数の将来推計

継続意向がある酪農家の年齢を見てみると、5年後の令和8（2026）年には、60歳以上の経営者が66%となります。また、今後も同じ推移で酪農戸数が減少した場合、令和12年（2030）度には、162戸まで減少する推計結果となっています。

現在(R3)の60歳以上の酪農家の割合と
5年後(R8)の60歳以上の酪農家の予想割合



R3.3月農業経営に関するアンケート調査
(那須塩原市)による。

令和12年度の値は那須塩原市酪農・肉用牛生産近代化計画※1による。
青：市内酪農家戸数
赤：一戸当たりの飼養頭数

(2) 酪農戸数の減少が将来に与える影響

機械化による労働負担軽減や大規模化、メガファームの参入により、一戸当たりの飼養頭数及び生乳生産量については、年々増加傾向にあります。担い手の高齢化や離農により酪農戸数が減少すれば、本市の酪農基盤を維持していくことが難しくなり、いずれは生乳生産量が減少していくことが考えられます。

※1 那須塩原市酪農・肉用牛生産近代化計画

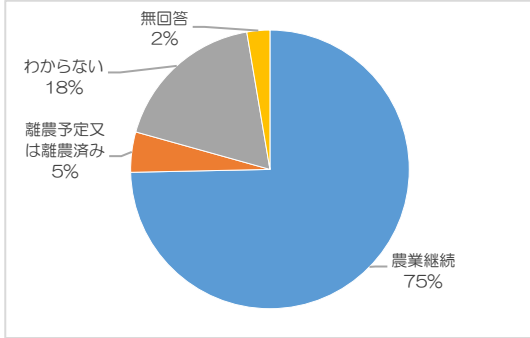
「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」は、「酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律」に基づき、酪農、肉用牛生産の健全な発展と牛乳・乳製品、牛肉の安定供給に向けた取組や施策の方向を示すものです。

また、都道府県が作成する「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための計画」等関連施策を市が運用する際の指針となるものです。

本市における酪農の目指す方向

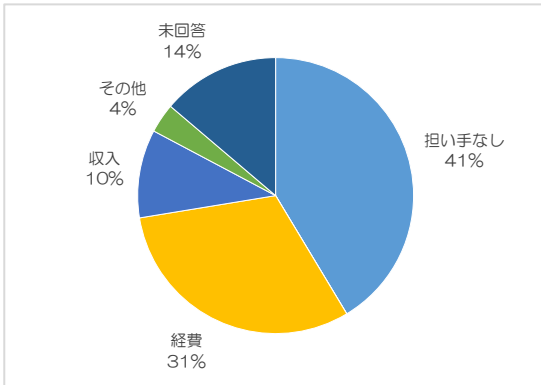
1 酪農に対する意識

(1) 5年後（令和8（2026）年）の農業経営について
5年後(R8)の酪農経営の継続について



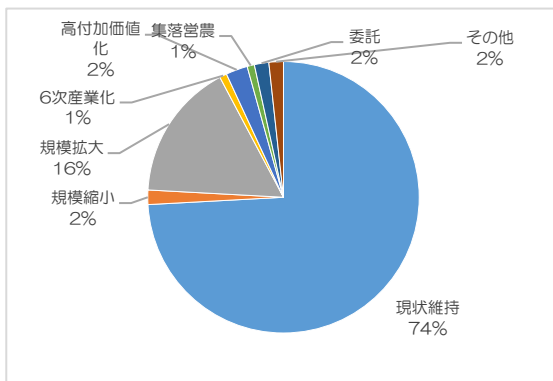
酪農家の75%は「農業継続」、23%の酪農家は「わからない」、「離農予定又は離農済み」と答えております。

分からないと答えた理由



なお、「分からない」と答えた酪農家の41%は「担い手がいない」、31%は「経費がかかる」ことを理由として挙げています。

酪農経営継続の方針について



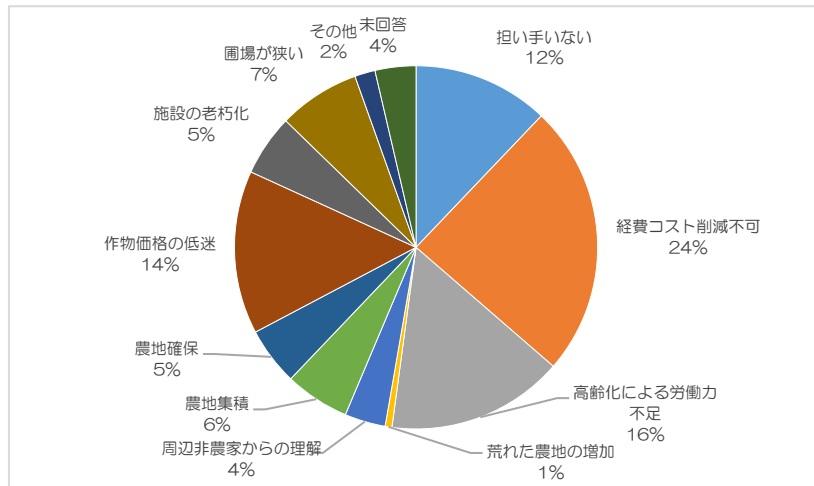
また、「農業継続」と答えた75%の酪農家のうち74%は「現状維持」、16%は「経営規模を拡大する」と回答しています。

R3.3月農業経営に関するアンケート調査
（那須塩原市）による。

(2) 酪農を続けていく上での不安

「担い手がない」、「高齢化による労働力不足」の労力面が28%、「経費コスト削減が不可」の経費面が24%、「作物価格の低迷」の収入面が14%と経営に直結する課題に不安を感じています。

酪農を続ける上での不安

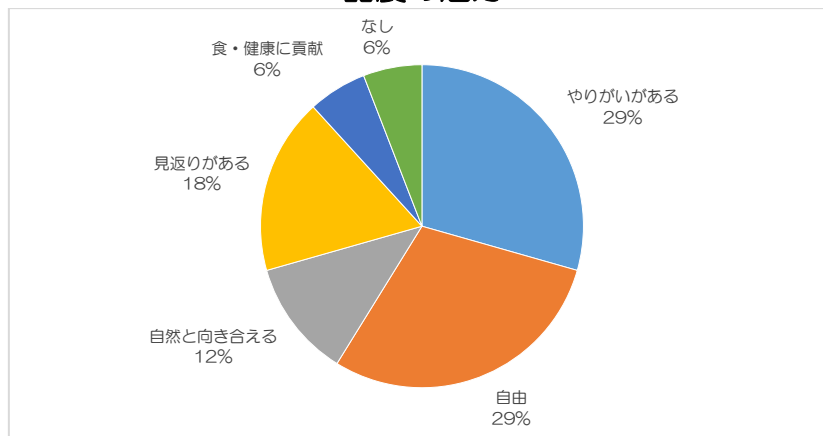


R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

(3) 酪農の魅力

多くの酪農家が、生き物や自然と向き合うことの難しさや大切さ、喜びを味わえる、そして収入面での見返りや食べ物・健康への貢献など、酪農の魅力とやりがいを感じていることが伺えます。

酪農の魅力



R3.3月農業経営に関するアンケート調査（那須塩原市）による。

2 酪農から生み出される魅力

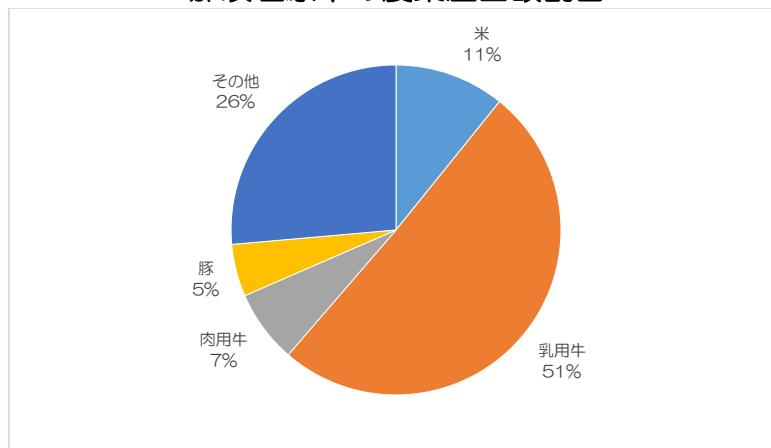
(1) 生乳産出額全国2位（本州1位）のまち

全国でも有数の生乳生産量を誇る本市の酪農は、乳用牛（ホルスタイン種）の飼養頭数が本州第1位、生乳産出額は市内の農業産出額の51%を占める市の基幹産業の一つであります。

農林水産省の統計における市町村別農業産出額（推計）においては、令和元（2019）年の生乳産出額が全国3位、令和2（2020）年においては全国2位となりました。

これらは、乳用牛（ホルスタイン種）が那須高原の自然豊かな環境の中で育てられ、生産者をはじめ酪農組合等が日々厳しい飼養管理により乳質向上に取り組み、安全安心な生乳の生産に努めている証であると言えます。

那須塩原市の農業産出額割合



R2年 市町村別農業産出額（推計）

農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果（農林水産省）より

全国の生乳産出額順位

順位	都道府県	市町村	生乳産出額（千万円）
1	北海道	別海町	5,072
2	栃木県	那須塩原市	2,007
3	北海道	中標津町	1,945
4	北海道	標茶町	1,826
5	北海道	清水町	1,360
15	愛知	田原市	754
18	熊本	菊池市	719
22	群馬	前橋市	602
26	栃木	那須町	553

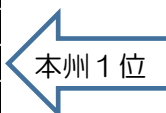
← 全国2位

R2年 市町村別農業産出額（推計）

農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果（農林水産省）より

全国の乳用牛（ホルスタイン種）飼養頭数順位

順位	都道府県	市区町村	ホルスタイン種（頭）
1	北海道	野付郡別海町	108,801
2	北海道	川上郡標茶町	50,700
3	北海道	河東郡土幌町	49,858
4	北海道	標津郡中標津町	44,703
5	北海道	上川郡清水町	37,487
6	北海道	広尾郡大樹町	29,276
7	北海道	河東郡鹿追町	27,707
8	栃木県	那須塩原市	25,120
9	北海道	紋別市	23,475
10	北海道	紋別郡湧別町	23,315
11	北海道	厚岸郡浜中町	23,252
12	北海道	河東郡上土幌町	22,813
13	北海道	標津郡標津町	22,446
14	北海道	上川郡新得町	21,220
15	北海道	河西郡芽室町	18,055
30	熊本県	菊池市	12,457
35	群馬県	前橋市	10,533
45	栃木県	大田原市	8,331
48	宮崎県	都城市	7,787
49	栃木県	那須郡那須町	7,594



市区町村別の牛の種別の飼養頭数（R3.9月末時点）
（資料：独立行政法人家畜改良センター）

(2) 魅力ある地元産牛乳・乳製品

市内には3つの酪農業協同組合と3つの乳業事業者があり、それぞれが地元の生乳を使った牛乳や乳製品を製造しています。

良質な水や肥沃な大地で生まれた「那須塩原ブランド^{※1}」として認定している牛乳やチーズ、アイスクリーム等の乳製品の数々は、どれも新鮮で良質なものが揃っており、国内有数の酪農のまちならではのフレッシュな味を楽しむことができます。

これら那須塩原ブランドの乳製品は、安心・安全はもちろん、生産者の情熱と創意が作り出す豊かな味わいで、子どもの成長や健やかな長寿社会の実現にも寄与する、毎日口にしたい品々で、本市の魅力ある産品として付加価値及び地域の知名度向上、市民の健康増進に貢献しています。

※1 那須塩原ブランド

厳選された農産物や特産物などに対して認定される那須塩原ブランド。

「那須塩原らしさ」「独自性」「信頼性」「安定性」などの基準に基づき認定される那須塩原が誇るプレミアムな地域ブランド

3 酪農を主軸とする地域活性化の方向性

本市においては、担い手の高齢化や離農により酪農戸数が減少傾向にあるものの、機械化による労働負担の軽減や大規模化及びメガファームの参入により、一戸当たりの飼養頭数及び生乳生産量が年々増加している傾向にあります。

酪農に対する意識調査をみても、離農する酪農家はいるものの、多くの酪農家は酪農への魅力とやりがいを感じ、経営規模を現状維持し、又は拡大していく意向を示しており、今後も飼養頭数及び生乳生産量の増加が見込まれます。

また、本市は、生乳産出額全国2位のまちとして、牛乳・乳製品の魅力ある地域資源を活用することで、酪農の発展だけでなく、地域全体の活性化を推進していきます。

これらを踏まえ、引き続き畜産農家の経営基盤の強化や担い手の確保を図り、持続可能な畜産業に取り組みながら酪農を主軸とする地域活性化の方向性として、次の2本の柱を設定し本戦略の推進に取り組みます。



柱の一つである「魅力ある酪農のまちづくりを推進する」については、本戦略に基づき「生乳産出額全国2位のまちづくり」を中心に取り組んでいきます。

豊かな自然と気候風土に恵まれたこの地で健康に育った乳牛の、鮮度の高い良質な生乳を生かした付加価値向上への取組や、改めて地域資源を見つめ直すことにより、それらとコラボレーションした新商品の開発や販路の拡大等、国内有数の「酪農のまち那須塩原」の地盤固めの強化を図っていきます。

また、もう一つの柱である「持続可能な酪農の経営基盤を確保する」については、那須塩原市の歴史とともに歩んできた酪農家と手を携え、安全・安心な新鮮な生乳を未来へも受け継がれて行けるよう、「那須塩原市酪農・肉用牛生産近代化計画」に基づき、酪農の経営基盤の強化に取り組んでいきます。

これらの取組を継続していくことにより、酪農の活性化、更には酪農を主軸とした地域全体の活性化を図り、「ミルクから広がる新しい世界」の構築を推進します。

Ⅱ 戦略編
～「酪農を主軸とする地域活性化への取組」～

基本方針

1 基本的な考え方

「Ⅰ 地域活性化ビジョン編」での酪農の現状や方向性を踏まえ、市の総合計画の部門別計画に位置付けながら、「牛乳等による地域活性化推進条例」を基に生産者、事業者、市民、そして市が協働し地域全体で「酪農を主軸とする地域活性化への取組」を展開することによって、地域活性化に取り組みます。

《牛乳等による地域活性化推進条例より》

- 【市】 目的達成のために必要な措置を講ずる。
- 【生産者】 安全安心な生乳の生産に努める。
- 【事業者】 魅力ある牛乳・乳製品の開発及び販売促進に努める。
- 【市民】 牛乳・乳製品を食事に取り入れること、行事の際に牛乳等で乾杯することに協力する。

(1) 魅力ある酪農のまちづくりを推進する

生乳産出額全国2位を誇る本市の酪農は、大消費圏である首都圏に近い立地、塩原温泉・板室温泉を有する観光地、牛乳・乳製品を製造販売する乳業事業者、そして酪農家を支える酪農組合等、地域資源を生かす要素や環境をたくさん備えています。

このため、生乳産出額全国2位のまちと牛乳・乳製品を組み合わせた消費拡大や普及啓発を図りながら、魅力ある酪農のまちづくりを推進します。

(2) 持続可能な酪農の経営基盤を確保する

本市は、先人が酪農の経営基盤を築き、維持・発展させ、日々安全安心な生乳の生産に努めている酪農家等の努力により生乳産出額全国2位のまちとなりました。

このため、経営している担い手の支援や新たな担い手の参入を促進するとともに、飼料生産基盤の拡充や耕畜連携を推進することで、持続可能な酪農の経営基盤を確保します。

2 基本目標

基本的な考え方に示す2本の柱の下、4つの基本目標を設定し、酪農の魅力を引き出し発信する者への戦略と、酪農の魅力を生み出す酪農家への戦略の両面からアプローチしていきます。

基本目標1 仲間とつながる

酪農を主軸とした地域活性化に取り組んでいくためには、酪農や生乳に対する理解を深め、酪農を応援してくれる仲間を増やしていくことが重要です。

生乳産出額全国2位のまちが生み出す地域資源を活用し、協働での仲間づくりに取り組みます。

基本目標2 魅せるものをつくる

市内には、3つの酪農業協同組合と3つの乳業事業者があり、良質な飼料で健康に育った乳牛から、生乳の持ち味を生かした個性豊かな、鮮度の高い良質な牛乳や乳製品を製造しています。

また、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構草地畜産研究所や栃木県畜産酪農研究センターといった研究機関や、栃木県立那須拓陽高等学校等によるオリジナル乳製品の開発やオリジナル乳酸菌を使用した商品開発など多くの開発基盤が整っています。

これらと連携し、地域資源の調査や付加価値向上等の取組を強化し、商品改良や新商品開発により、シリーズ展開化を図ることで、本市ならではの継続的な魅力ある商品の開発と消費拡大、販売促進等に取り組みます。

基本目標3 魅せる場をつくる

日常的に牛乳や乳製品をPRする場を設けることで、消費者が手に取りやすい環境づくり、さらには、生産者や事業者、消費者が相互に交流する場を増やし魅力を向上していくことが必要です。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを継承し、地域の魅力発信や地域活性化につなげるために締結した民間企業との連携協定等を生かし、首都圏でのPRイベントなども積極的に開催していきます。那須塩原市産の牛乳や乳製品の販売に加え、生乳産出額全国2位のPRを行うことにより、首都圏エリアからの観光客の誘客につなげていきます。

「牛乳・乳製品といえば那須塩原」という“本物感”を持った地域ブランドとして、市民や訪れる観光客等に定着するよう、生乳産出額全国2位のまちとしてブランド力の向上と魅せる場の創出に取り組み、地域の知名度向上や地域産業の活性化を推進していきます。

基本目標4 安心して働ける場をつくる

将来にわたり、酪農の経営基盤を確保し、維持していくには、現在経営している担い手が安心して働ける環境と新たな担い手が参入しやすい環境を整備することが必要です。

酪農経営に関わる経費や労働の負担を軽減し、地域ぐるみによる酪農の収益性向上、自給飼料の生産性向上を図ることで、担い手が酪農にやりがいや魅力を感じ、安心して働ける場の提供に取り組みます。

3 戦略策定に当たっての基本的な視点

次に掲げる視点を持ちながら、基本目標の達成に向けて、戦略を立案・展開していきます。

(1) 成果指標

ミルクタウン戦略においては、具体的な施策を達成するための目標値である「成果指標」を設定します。

基準年度は令和2（2020）年度とし、計画取組期間（令和5（2023）年度から令和9（2027）年度まで）の最終年度である令和9（2027）年度を目標年度とします。

指標名	現状値	目標値
生乳生産量	167,626t/年 (令和2(2020)年度)	185,337t/年 (令和9年度)
本市を象徴するもの (牧場、牧草、牛、牛乳、 酪農関係の記述の割合)	10.5% (令和3(2021)年度)	上昇を目指す。

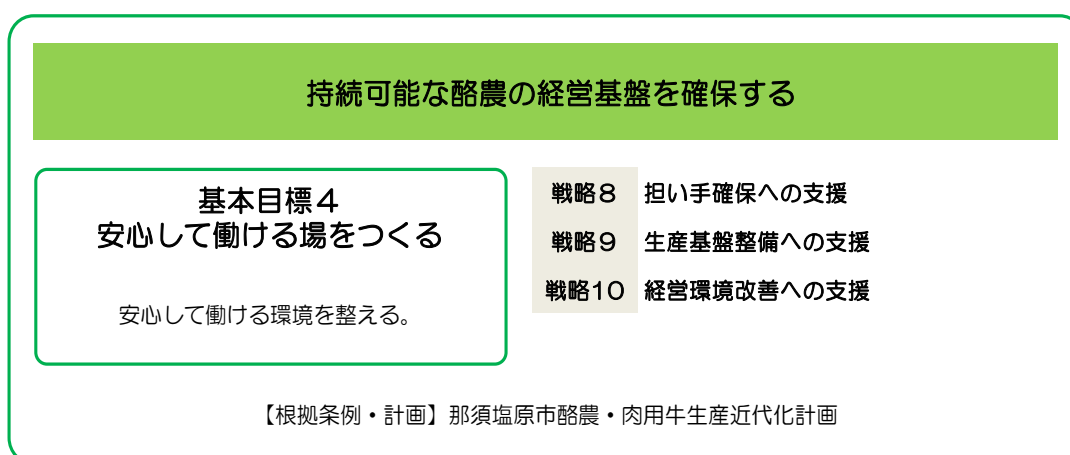
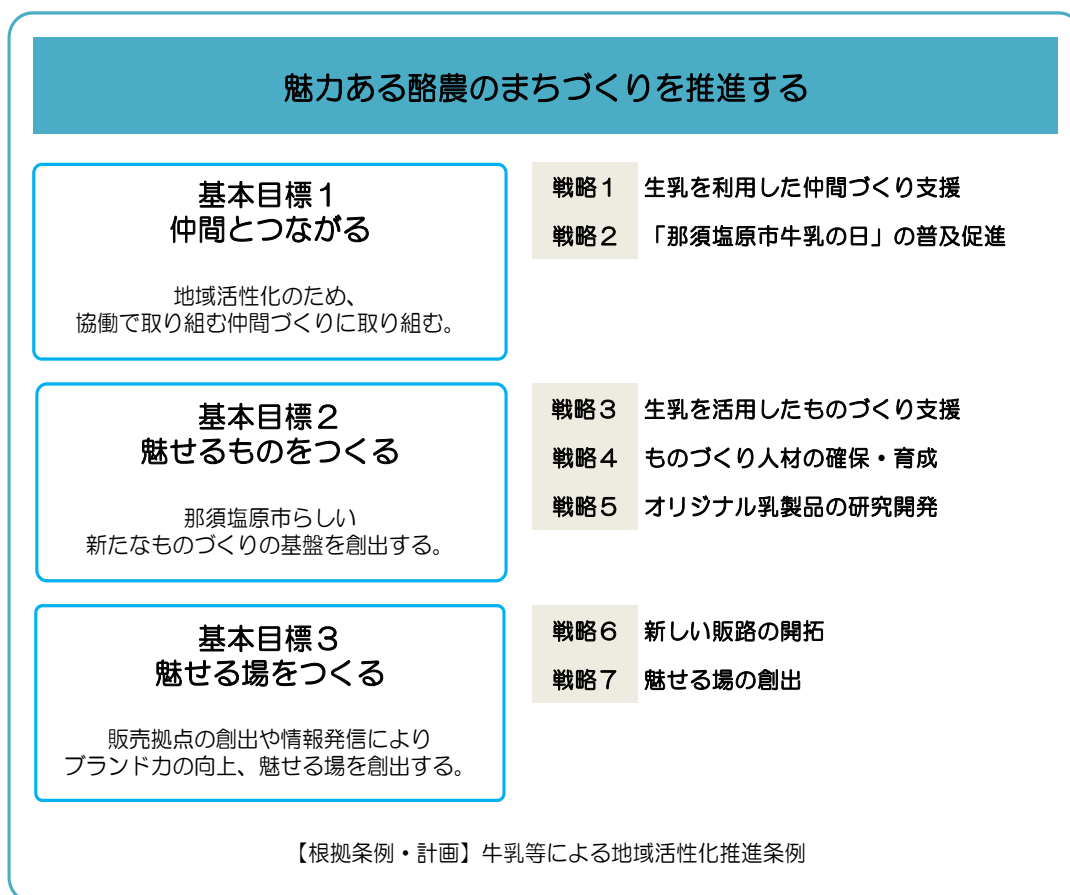
生乳生産量：那須塩原市酪農・肉用牛生産近代化計画の推計より
本市を象徴するもの：市民アンケート調査^{*1}より

※1 第2次那須塩原市総合計画後期計画策定に関する市民アンケート調査（令和2（2020）年1月～2月調査）

この調査は、令和3（2021）年度末で計画期間が終了する第2次那須塩原総合計画前期基本計画の基本施策における満足度・重要度調査を行うとともに、現在の市民ニーズを把握し、令和4（2022）年度から始まる第2次那須塩原市総合計画後期基本計画策定のための基礎資料とするために実施しました。

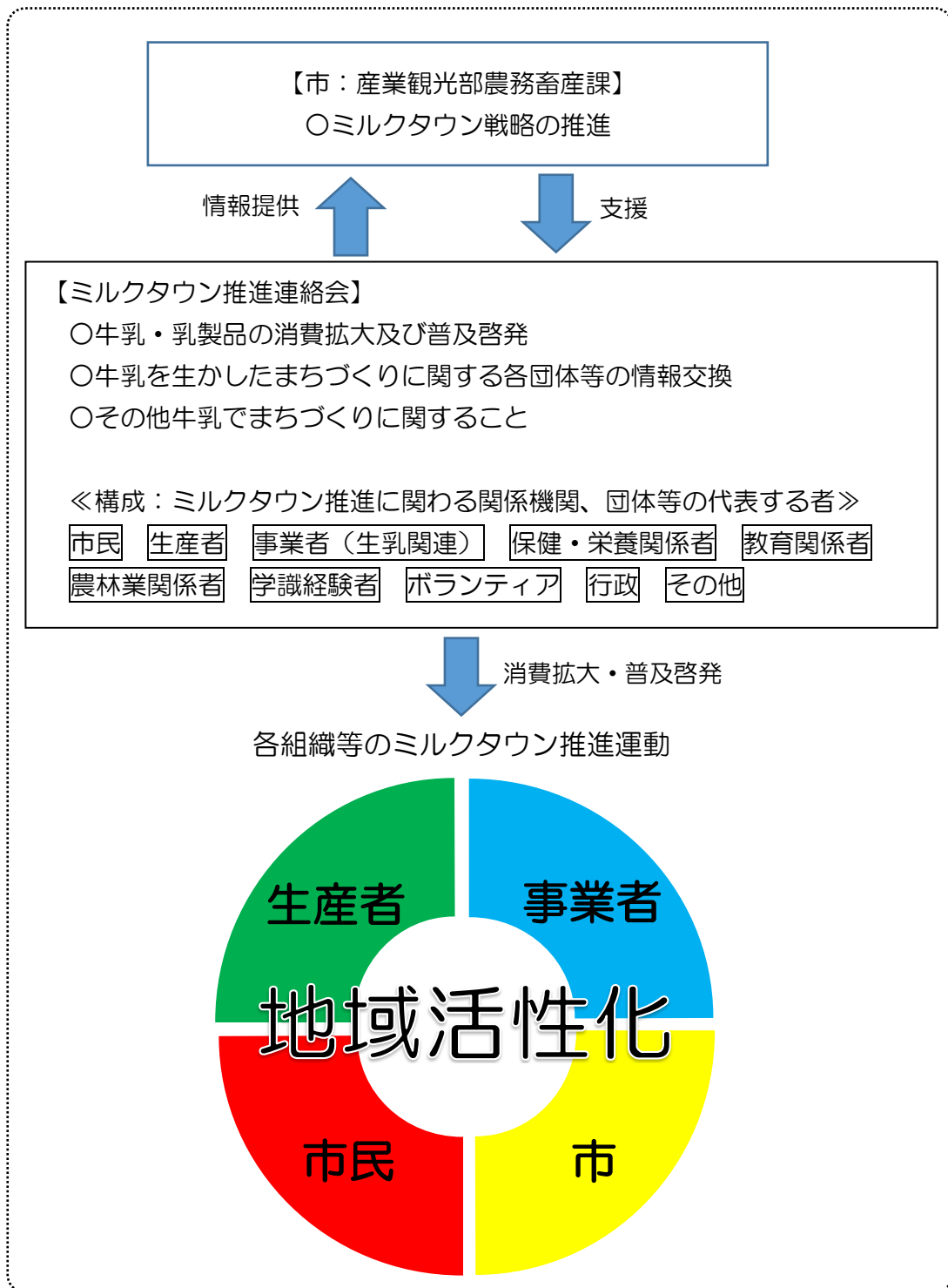
(2) 戦略体系


「魅力ある酪農のまちづくりを推進する」「持続可能な酪農の経営基盤を確保する」を2本の柱とし、基本目標（1～4）、戦略（1～10）により、地域ぐるみで酪農を主軸とする地域活性化に取り組みます。



(3) 推進体制

地域全体の活性化を推進するため、関係機関が相互に緊密な連携を図り、各々が有する情報やネットワークなどの知的・人的資源等を活用しながら、魅力あるまちづくりに取り組みます。





基本目標 1 仲間とつながる

酪農を主軸とする地域活性化に取り組むため、協働で取り組む仲間づくりに取り組みます。

戦略 1 生乳を利用した仲間づくり支援

市民等に生乳を原料とする牛乳や乳製品、酪農への理解や興味を深めてもらい、まちづくりへの参加機会を提供します。

- 小中学校を対象とした酪農に関する出前講座の開催 継続
生乳産出額全国2位を誇る酪農の歴史や現状を伝える出前講座を実施します。
- 牛乳普及推進隊の支援
牛乳普及推進隊が行う牛乳普及活動を支援します。
- 牛乳等を利用したイベント等への後援
牛乳料理コンクールやポスターコンクールを後援し、牛乳の普及啓発を図ります。
- ミルクタウン推進体制の強化
市民、生産者、事業者、市による推進体制を強化します。
- みるひい^{※1}の活用
みるひいを活用し、生乳産出額全国2位のまちとして普及啓発を図ります。

- 牛乳検定の実施 新規
牛乳や酪農によるまちづくりへの意識を高めるため、「牛乳検定」の実施を検討します。
- チーズマイスター育成事業の実施
チーズの知識や取扱いに関する知識を習得し、チーズの伝え手となる人材を育成する事業を検討します。

戦略2 「那須塩原市牛乳の日^{※2}」の普及促進

9月2日を、9と2で（ぎゅうにゅう）の語呂合わせで、「那須塩原市牛乳の日」とし、イベントを開催します。

・9月2日の「那須塩原市牛乳の日」イベントの開催

継続

記念日として登録した「那須塩原市牛乳の日」に牛乳や乳製品の消費拡大や普及啓発に関するイベントを実施します。また、「那須塩原市牛乳の日」を積極的に普及促進するため、イベントの在り方を検討します。

例：ハッシュタグキャンペーン

SNS を使って、9月2日に牛乳で乾杯の画像をアップし、「那須塩原市牛乳の日」の普及啓発を図る。

・記念日イベント連携事業の開催

新規

他団体の記念日に関するイベント等と「那須塩原市牛乳の日」イベントを連携することで、広く普及啓発を行います。

例：南会津町乾杯条例^{※3}による「日本酒の日」イベントの連携等

※1 那須塩原市ブランドキャラクター「みるひい」

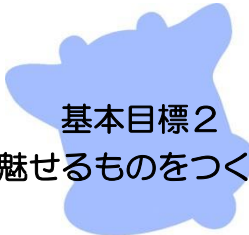
「生乳生産本州一のまち」那須塩原のおいしい牛乳をもっと飲んでほしい！という思いから、平成17（2005）年1月1日（市町村合併とともに）誕生し、その後、那須塩原市の魅力をもっと多くの人に知ってもらうため、市ブランドキャラクターに就任しました。ドイツ語で牛乳を表す「milch(ミルヒ)」から名付けられました。

※2 那須塩原市牛乳の日

那須塩原市畜産振興会では、9月2日を『牛乳の日（9と2で「ぎゅうにゅう」と読ませる語呂合わせ。）』として、平成19（2007）年6月29日に定め、本市の牛乳の普及啓発を実施し、本市の生乳生産本州一としてのイメージアップを図ってきました。このような中、那須塩原市内外の方に対しても、牛乳に親しみを感じてもらうために、9月2日を「那須塩原市牛乳の日」として、一般社団法人日本記念日協会に登録申請し、平成29（2017）年8月17日に記念日として登録しました。

※3 南会津町乾杯条例

南会津町は、地元酒を用いることで、地産地消の促進と地元酒のPRにつなげ、地域産業を積極的に後押しすることを目的として、平成25（2013）年6月21日に「南会津町乾杯条例」を制定しました。



基本目標2 魅せるものをつくる

本市の豊富な生乳の資源と乳業基盤を活用し、那須塩原市らしい新たなものづくり体制を創出します。

戦略3 生乳を活用したものづくり支援

- 6次産業化に取り組む者への支援 継続
農商工連携事業を活用する等、6次産業化に取り組む農業者・市民、市民団体等を支援します。
- 新商品開発やイベント開催への支援
新商品開発やイベントに取り組む市民、市民団体等の活動を支援します。
- 栃木県畜産酪農研究センター乳加工施設を活用した6次産業化の促進
牛乳・乳製品加工に興味を持ってもらうため、県と連携し、乳製品試作をする場を提供することで、6次産業化を目指す農業者等を支援します。

- チーズ等の乳製品を使った料理の普及促進 新規
各種イベントにおいて、那須ナチュラルチーズ研究会^{※1}等と連携し、那須地域のチーズ等を提供・活用し普及を図ります。

戦略4 ものづくり人材の確保・育成

6次産業化に取り組みたい方や興味がある方に、県と連携しながら情報提供に努めます。

- 栃木県6次産業化実践アドバイザー事業^{※2}の活用 継続
県と連携し、6次産業化に取り組む農業者へアドバイザーを派遣します。

戦略5 オリジナル乳製品の研究開発

地域資源を生かしたオリジナル乳製品の研究開発を行います。

・ 那須塩原市オリジナル乳製品の研究開発

継続

栃木県立那須拓陽高等学校と連携して、本市のオリジナル乳製品の研究開発を実施します。

同学校で生産された農畜産物（生乳、野菜、果物）から分離した乳酸菌と生乳を組み合わせたバター及び乳酸菌飲料等の研究開発を支援します。

・ 那須塩原市ゼロカーボン乳製品等の製造・販売

新規

再整備後の道の駅「明治の森・黒磯」において、製造過程におけるCO₂排出量ゼロで生産するゼロカーボンブランド乳製品やその乳製品を活用した特産品を製造・販売を目指します。

・ 那須塩原市オリジナル乳酸菌の活用

那須塩原市オリジナル乳酸菌を活用した乳製品等の開発を目指します。

また、開発した商品に商標「NS milberry（エヌエスミルベリー）※3」を表示することで、ブランド化を図ります。

※1 那須ナチュラルチーズ研究会

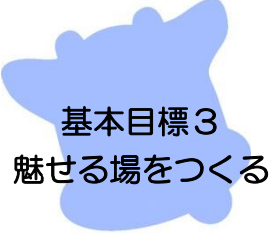
那須ナチュラルチーズ研究会は、那須地域のチーズ工房等が集まり平成24（2012）年9月に設立。チーズの製造技術の向上やチーズの普及促進を目的に活動を行い、今年で設立10周年を迎えます。令和元（2019）年10月にイタリアで開催された「World Cheese Award 2019」での世界10位に入賞や、令和4（2022）年10月に日本で開催された「Japan Cheese Award 2022」において最優秀部門賞を受賞した工房が所属しています。

※2 栃木県6次産業化実践アドバイザー事業（栃木6次産業化サポートセンター）

栃木県では、農林漁業の6次産業化を推進するため、県内の農林漁業者等に対し、生産・加工・販売の一体化や関連事業者との連携・提携などの6次産業化の取組を総合的に支援する「栃木6次産業化サポートセンター」を設置しました。6次産業化に取り組む前の段階から、既に取り組んでいる方までの様々な相談に、専門家（6次産業化実践アドバイザー）を派遣して応えるほか、6次産業化に必要な知識やスキルを身につける講座制研修会の開催、異業種との交流会を開催します。

※3 NS milberry（エヌエス ミルベリー）

国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校と共同で探査した那須塩原オリジナル乳酸菌を使用した商品（栃木県産の乳製品、栃木県産の菓子（果物・野菜・豆類又はナッツを主原料とするものを除く）、栃木県産のパン、栃木県産のサンドイッチ）に表示するため、令和4（2022）年9月に商標登録を行いました。



基本目標3 魅せる場をつくる

新たな販売拠点や情報発信により“牛乳・乳製品”と“生乳産出額全国2位のまち”を結び付け、『本物感』あふれるイメージを持ってもらえるようなブランド力の向上を図り、魅せる場の創出に取り組みます。

戦略6 新しい販路の開拓

企業や団体と連携し、新しい販路の開拓に取り組みます。

- 市内高校、企業等での牛乳、乳製品の販路拡大 継続
那須塩原市産牛乳や那須塩原市オリジナル乳製品などの市内高校、企業等への提供を検討します。
- 企業主催の展示会や商談会への参加
販路拡大を希望する酪農家に対し、展示会や商談会の参加を促します。

- 首都圏等への販路拡大 新規
民間企業との連携協定^{*1}などを生かし、首都圏のイベント等で那須塩原市産牛乳・乳製品をPRすることで、新たな販路拡大のきっかけづくりを形成します。

戦略7 魅せる場の創出

牛乳や乳製品がいつでもどこでも提供できる場を創出することで市民や観光客等に消費を促し、「生乳産出額全国2位のまち」と「地場産品である牛乳・乳製品」を印象づけることで、地域のブランド化を図ります。

- 那須高原ミルク街道^{*2}との連携促進 継続
イベント等で、那須高原ミルク街道と連携し、牛乳・乳製品の普及啓発を実施します。
- イベント等での「どこでも蛇口」の設置
各種イベントにおいて、牛乳を試飲できる「どこでも蛇口」を活用し、「牛乳のまち」をPRします。
- 牛柄ラッピングによるPR活動
新幹線、バスやタクシー等の交通機関やポスト等を牛柄でラッピングすることで、酪農のまちとしての普及啓発を検討します。

新規

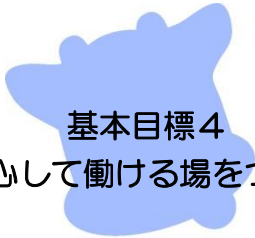
- 道の駅での乳製品コーナーの設置
地元産乳製品の消費拡大、普及啓発を図るため、道の駅にそれらを集めた乳製品コーナーの設置を検討します。
- JR 駅でのウェルカムミルクの実施
JR 駅の観光案内所等で牛乳や乳製品を提供することで、普及啓発を図ります。
- 首都圏等へ向けた PR 活動
民間企業との連携協定や、県アンテナショップ等を活用し、首都圏のイベント等で那須塩原市産牛乳・乳製品を PR し、那須塩原市の魅力向上を図ります。

※1 民間企業との連携協定

本市と㈱八芳園は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業として実施した「那須拓陽高等学校と八芳園によるオーストリア選手団おもてなしメニューの開発」や、その後の「八芳園がプロデュースする白金台イベントスペースMuSuBuでの本市農畜製品のPR」などで連携。これを契機に、オリパラのレガシーとして今後の新たな取組につなげていくため、令和4（2022）年1月28日にパートナーシップ連携協定を締結しました。

※2 那須高原ミルク街道

栃木県の北部に位置する那須塩原市と那須町の北西部、那須連山のすそ野一帯をいいます。県道矢板那須線と県道那須西郷線を中心となる街道とし、地域で生産される豊富な農畜産物である「食」を地域の主役として、その他の資源と連携したエリア限定のおもてなし事業を行っています。



基本目標4

安心して働ける場をつくる

高齢化や離農により酪農戸数は減少し、担い手が不足しています。

既存酪農家や新規就農者等、地域全体で酪農業を支えながら、安心して働ける環境を整えます。

戦略8 担い手確保への支援

酪農の魅力を発信するとともに、酪農の経営技術を次世代に継承していくことで、意欲ある人材の参入及び定着を図ります。

- 新規就農者の参入を促進

継続

新規就農者の参入を促進するため、実地研修の受入先の確保等、酪農研修体制の在り方を検討します。

- 経営技術支援体制の構築

技術講習会や酪農OB^{※1}による技術継承等、酪農の経営技術支援体制の在り方を検討します。

戦略9 生産基盤整備への支援

補助事業による施設等の整備を支援します。

- 畜産クラスター事業^{※2}への取組支援

継続

国県及び酪農組合と連携し、畜産クラスター事業への取組を支援します。

- 畜産担い手育成総合整備事業^{※3}への取組支援

国県及び酪農組合と連携し、畜産担い手育成総合整備事業への取組を支援します。

※1 酪農OB

酪農経営をされていた方で、経営主体を担い手に譲った方。

※2 畜産クラスター（畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業）

畜産クラスター計画とは、畜産クラスター協議会が定める、地域の畜産の収益性向上を図るための計画です。国は、国庫補助事業等により畜産クラスター推進の支援をします（畜産収益力強化対策等の活用には、都道府県知事の認定を受けた畜産クラスター計画が必要です）。

※3 畜産担い手育成総合整備事業

飼料自給率の向上と畜産経営の効率化を促進するため、飼料畑の造成・整備や、農業用施設（牛舎、堆肥舎等）の整備を財団法人栃木県農業振興公社が主体となっていく事業です。平成28（2016）年度以降に事業が開始されています。

戦略10 経営環境改善への支援

酪農経営の経費や労働負担を軽減し、経営基盤の強化を図ります。

・乳用牛群改良の促進

継続

牛群検定^{※1}への参加を推進するため、各牛群検定組合の活動事業費の一部を助成します。

・家畜自衛防疫（予防接種助成）の強化

家畜自衛防疫体制の強化を図るため、伝染性疾病対策費（予防接種）の一部を助成します。

・八郎ヶ原放牧場^{※2}による放牧の再開・利活用の検討

新規

放牧による乳用牛の健全育成や、飼料の低コスト化が図られるとともに、放牧場の規模や運営方法、利活用についても検討し、効率的で適正な管理運営に努めます。

・酪農ヘルパー^{※3}の利用支援

酪農家がゆとりある経営を展開するため、酪農ヘルパーの人材の確保や利用について検討します。

・自給飼料の利用拡大

飼料価格の高騰に伴い、稲 WCS や飼料用米^{※4}等の利用拡大に伴う支援の在り方を検討します。

・品質改善等に向けた飼料の利用拡大

品質改善とメタン排出抑制に効果のある飼料の利用拡大を促進します。

・エネルギー費用削減と事業継続性の向上

酪農施設に、太陽光発電設備、蓄電池等の設置を促し、エネルギー費用の削減と、停電時の速やかな復旧の実現を目指します。

・地域と調和した酪農経営の推進

持続可能な酪農経営を維持するため、畜舎等の適切な管理、圃場への堆肥等散布時の早期耕起等の取組や、耕畜連携の強化を推進し、地域との調和を図ります。

※1 牛群検定

牛群検定とは、検定参加農家が飼養している経産牛全頭について、乳量、乳成分、体細胞数、飼料給与状況、飼料単価、乳価、繁殖記録等といったデータを毎月1回、検定員の立会の下に牛個体毎に記録し、これらを集計・分析して「検定成績表」として農家にフィードバックしています。受け取った酪農家は、飼料給与の改善、搾乳衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良といった生産全般にわたるチェックを行い、経営改善に役立てています。優れた雌牛の選抜確保及び種雄牛の後代検定を推進するもので、乳用牛改良の基盤事業となっています。

※2 八郎ヶ原放牧場

八郎ヶ原放牧場では、乳用牛の効率的な育成を目的に、大自然に囲まれた約 50 ヘクタールの牧草地の中で預託放牧を実施していました。育成牛の放牧は、広々とした大地、適度な斜面の中を自由に歩くため足腰が丈夫になり、牛の健康づくりに良いとされています。

※3 酪農ヘルパー

酪農ヘルパーとは、酪農家が休みをとる際に酪農家に代わって、搾乳や飼料給与などの作業を行う仕事に従事する人をいいます。酪農は朝夕2回の搾乳作業が欠かせないため、1年中休みがとれないという実態となっていました。こういった事態を少しでも解消して酪農家が定期的に休日をとってゆとりある経営を展開してもらうために、酪農ヘルパーが活躍しています。

※4 稲WCS（ホールクroppサイレージ）と飼料用米

家畜の飼料として使用される米です。籾殻のみを飼料にする場合と、茎葉と籾を同時に飼料とする場合があります。後者の場合を特に稲発酵粗飼料（稲WCS、ホールクroppサイレージ）と呼び、稲の実と茎葉を同時に収穫・密封して乳酸発酵させて用いられます。

戦略の実効性を高めるための取組

本戦略は、本市の「酪農を主軸とする地域活性化」に取り組む5年間の道筋を示したものです。

ミルクタウン戦略の実行段階において、その戦略に掲げた取組を実行し、着実に成果を上げ、市民、生産者、事業者、関係機関等と力を合わせて、市全体で「酪農を主軸とする地域活性化」への力強い潮流をつくっていくことが重要です。

こうしたことから、ミルクタウン戦略の実行性を高める取組として、次の3点を実行していきます。

1 協働の推進

市民、生産者、事業者が地域への愛着と誇りを持ち、それぞれの創意工夫により役割を果たせるよう、協働により推進していきます。

2 財源の確保

戦略の実行段階において、「酪農を主軸とする地域活性化」への力強い潮流をつくっていくためには、十分な財源の確保が必要です。

まずは自らの取組を着実に実行するため、事業の選択と集中を図りながら、必要な財源の確保に努めます。

3 推進状況の把握・検証

本戦略では、具体的な施策を達成するための目標値として、「成果指標」を設定しています。これらの指標の達成状況や取組の進捗状況等を適切に把握・検証するため、PDCA サイクルの下、取組の見直しと改善を図ります。

III 資料 編

ミルクタウン推進連絡会委員と策定経過

(1) 那須塩原市ミルクタウン推進連絡会委員一覧

区分	所属	氏名
酪農業団体	酪農とちぎ農業協同組合 那須高原支所長	野中 寿伸
	栃木県酪農業協同組合 県北支所長	綱川 英樹 齋藤 浩（令和4年7月～）
	那須常根酪農業協同組合 営業課長	渡辺 芳信
乳業関連事業団体	ホウライ(株)那須千本松牧場 営業推進部営業課長	大橋 晃
	新生酪農(株) 事業管理課	大森 兼治
	栃木県牛乳普及協会 事務局長	大野 満
市民団体	那須高原ミルク街道推進協議会 会長	永山 優子
	那須塩原市青少年クラブ協議会 会長	永森 啓太
	那須ナチュラルチーズ研究会 事務局長	眞嶋 七重
	青木地区チーズづくり研究会 代表	人見 孝允
県内教育機関	那須拓陽高等学校 教諭	中嶋 亮介
	那須清峰高等学校 教諭	高橋 徹
	国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校准教授	高屋 朋彰
学識経験者	(株)あしぎん総合研究所 地域開発事業部長上席研究員	佐藤 和寿
行政機関	栃木県那須農業振興事務所 次長兼企画振興部長	高野 孝夫
	栃木県畜産酪農研究センター 所長	脇阪 浩
	那須塩原市 産業観光部長	織田 智富

(2)策定経過

『ミルクタウン戦略』は、酪農関係者や外部有識者等で構成する「那須塩原市ミルクタウン推進連絡会」の意見等を踏まえ、策定しました。

年 月 日	懇談会等
令和3年11月26日 ～12月17日	農業経営に関するアンケート調査
令和4年 6月22日	第1回ミルクタウン推進連絡会
8月 2日	第2回ミルクタウン推進連絡会
令和4年12月 9日 ～令和5年1月11日	パブリックコメント
令和5年 2月 6日	第3回ミルクタウン推進連絡会（書面）
令和5年 3月	策定

前戦略の実施内容

基本目標 1 まちづくりの仲間をつくる

戦略 1 生乳を利用した仲間づくり支援

取組	取組内容	実施内容	評価
地域イベントへの乾杯用牛乳提供	自治会等が主催するイベントに乾杯用牛乳を無料提供し、「牛乳で乾杯」を推奨します。	≪参加人数≫ H27：8,692人 H28：5,766人 H29：5,546人 H30：5,087人 R1：4,834人 ※R2年度から新型コロナウイルスの影響により中止	◎
公民館料理講座への牛乳乳製品の食材提供	公民館が牛乳・乳製品を利用した料理講座を実施する際に、その材料費を補助します。	≪講座回数≫ H27：13回 H28：11回 H29：24回 ※H29年度で終了	◎
小中学校を対象とした出前講座「わがまち酪農」の開催	生乳生産本州一を誇る酪農の歴史や現状等を伝える出前講座を実施します。市の酪農を学び牛乳で乾杯することで、郷土愛を醸成する	H30年度三島中学校に対して、畜産フェアをテーマに実施	◎
牛乳でまちづくり「フォトコンテスト」の開催	牛乳に関する写真のコンテストを開催します。	H28年9月に実施 応募作品数：50点	◎
牛乳や乳製品を使用した料理コンテストの開催	栃木県牛乳普及協会が主催する牛乳料理コンクールを後援し、牛乳の普及啓発を図ります。	牛乳料理コンクール栃木県大会に後援（賞品提供） ※R2年度は、新型コロナウイルスの影響により中止。	◎
食育講演会の開催	牛乳離れが始まる傾向がある高校生を対象に、牛乳や乳製品を通じた食育後援会を開催します。	検討・未実施	△
牛乳・乳製品による健康度モニター事業	牛乳・乳製品に対する消費量調査や体力等の健康調査を行い、食や健康への意識を高める事業を検討します。	健康増進課・乳業企業等と連携し、市民をモニターに健康PRを検討したが、実施に至らなかった。	△

牛乳普及推進隊の結成	新規募集や既存組織を活用した牛乳普及を行う推進隊を結成し、その活動を支援する体制を検討します。	畜産振興会、那須高原ミルク街道、4Hクラブ、栃酪青年部等を推進員と位置付け、普及啓発活動実施	◎
ミルクタウン推進体制づくり	市民、生産者、事業者等による市民主導による推進体制を検討します。	H30年11月にミルクタウン推進連絡会を設置。 各年2回実施	◎

戦略2 牛乳消費拡大PRキャラクター「みるひい」の利用促進

取組	取組内容	実施内容	評価
みるひいの着ぐるみ貸出し	イベントなどで牛乳の普及啓発等を実施する際のPRキャラクターとして、着ぐるみを貸し出します。	畜産フェア、牛乳の日イベント等各種イベントにおいて利用しPR活動を行った。 H29年度に市のブランドキャラクターとなっても、情報発信やPR活動時には積極的に活用している。	◎
みるひいのデザイン利用	牛乳の消費拡大PRキャラクターを起用することによる牛乳の普及啓発等を推進するため、広告物や商品等にみるひいのデザインの利用を推奨します。		◎
みるひいによる情報発信	広報やホームページ、イベント等でみるひいを活用し、情報を発信します。		◎

戦略3 「9月2日は牛乳の日」の普及促進

取組	取組内容	実施内容	評価
「9月2日は牛乳の日」イベントの開催	牛乳や乳製品の消費拡大や普及啓発に関するイベントを実施します。また、「那須塩原市牛乳の日」を積極的に普及促進するため、イベントの在り方を検討します。	なすしおばらマルシェと連携し、4H企画、酪農協等の協力により市民主体による那須塩原市牛乳の日イベントを実施した。 ※R2年度から新型コロナウイルスの影響により中止	◎
日本記念日協会へ登録	「那須塩原市牛乳の日」を記念日に登録し、その存在を広く周知します。また、記念日のシンボルとなる場所を「記念日の聖地」に登録することで、地域のイメージアップを図ります。	H29年度、9月2日を「那須塩原市牛乳の日」として記念日登録	○

基本目標2 旨いものをつくる

戦略4 生乳を活用したものづくり支援

取組	取組内容	実施内容	評価
国・県の農商工連携事業の活用（農家申請版）	国・県と連携し、6次産業化に取り組む農業者を支援します。生乳を原料とした牛乳・乳製品の新品開発や牛乳・乳製品を使用したイベントの開発を支援します。	畜産フェアや牛乳の日等のイベントを開催し、6次産業化に取り組む農業者に対し、牛乳や乳製品を提供する場をつくった。	○
新品開発やイベント開催への支援	新品開発やイベントに取り組む市民、市民団体等の活動支援を検討します。	「生乳生産本州一チャレンジ事業」において市民団体等が実施するまちづくり活動費の一部を補助した。 ≪利用団体数≫ H29：2団体 H30：3団体 R1：3団体 R3：2団体 ※R2年度は新型コロナウイルスの影響により中止	◎
乳製品加工施設整備への支援（市民申請版）	乳製品加工施設を整備し、6次産業化に取り組む市民、市民団体等への支援を検討します。	国及び県事業について、該当するものがあれば案内した。	○
飲食店やホテル、旅館等へ提供する創作料理の研究	酪農家に伝わる郷土料理を基本とした創作料理の研究に努めます。	市内小学4～6年生を対象としたアイデア料理コンテストを実施 ≪応募数≫ H29：630名 H30：415名 R1：376名 ・地域おこし協力隊が料理研究家や那須ナチュラルチーズ研究会と連携し「メイドイン那須のチーズフォンデュ」等レシピ開発を行った。 ・青木地区チーズづくり研究会が酪農家間で生乳を使用したナチュラルチーズ作りやピザ料理等を試作し、地域内で普及活動を行った。	◎

栃木県畜酪農研究センター乳加工施設の利用促進	牛乳・乳製品加工に興味を持ってもらうため、県と連携し、乳加工施設の利用促進を図ります。	栃木県畜酪農研究センターと連携し、施設の情報発信、利用促進を図った。また、市オリジナル乳酸菌製品を製造する際は、加工施設の利用と技術支援を受けた。	◎
------------------------	---	---	---

戦略5 ものづくり人材の確保・育成

取組	取組内容	実施内容	評価
栃木県6次産業化実践アドバイザー事業の活用	県と連携し、6次産業化に取り組む農業者へアドバイザーを派遣します。	県と連携し、6次産業化に取り組む農業者へ補助金等の情報提供を行った。	○

戦略6 オリジナル乳製品の研究開発

取組	取組内容	実施内容	評価
那須塩原市オリジナル乳製品研究開発事業	栃木県立那須拓陽高等学校と共同して、本市のオリジナル乳製品の研究開発を実施します。那須拓陽高等学校で生産された農畜産物（生乳、野菜、果物）から乳酸菌を分離し、その乳酸菌と生乳を組み合わせたヨーグルト及び乳酸菌飲料等の研究開発を支援します。	栃木県立那須拓陽高等学校と森林ノ牧場(株)が連携し「拓陽キスミル」を開発し、イベント等を通じてPRを行った。R1年度～R3年度においては、市内小中学校の給食で提供した。（各年度10,500食） また、ヨーグルトの試作や、バター、A2ミルクの製造・販売も行った。	◎
那須塩原市由来の乳酸菌の探査	国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校と共同して、那須塩原市で生産された農畜産物から、乳製品開発に適した乳酸菌を探査します。	国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校に探査委託。栃木県畜酪農研究センターにおいて菌の選抜を行った。その那須塩原市オリジナル乳酸菌について、安全性試験を実施。「NS milberry（エヌエス ミルベリー）」として商標登録の申請を行った。	◎

基本目標3 売る場をつくる

戦略7 新しい販路の開拓

取組	取組内容	実施内容	評価
市内高校や近隣大学、企業食堂等での牛乳、乳製品販売	那須塩原市産牛乳や那須塩原市オリジナル乳製品、郷土料理を基本とする創作料理など、市内高校、近隣の大学、企業、病院食堂等への提供を検討します。	拓陽キスミルについて、市内スーパーや道の駅で購入できるよう販路開拓に取り組んだ。	◎
新幹線通勤者向け「めざましごはん」の開発販売	JR と連携し、通勤者が気軽においしく食べられる朝食の開発を検討します。	H29年度に尙松酒家と試作を重ね、ミルク粥の商品化を進めてきたが、コストや見た目の問題が改善できず断念した。	○
JR 主催の栃木 DC への参加 (H29~H31)	JR、関係団体、企業等と連携し、那須塩原市の魅力を PR します。	DC へ参加し PR 活動を行った。	○
企業主催の展示会や商談会への参加	販路拡大を希望する農家に対し、展示会や商談会の参加を促します。	希望する農家に対し、紹介可能な展示会について案内した。	○

戦略8 ミルクスタンド（牛乳・乳製品の提供の場）の設置

取組	取組内容	実施内容	評価
イベント等へのミルクスタンド出店	各種イベントにおいて、牛乳や乳製品を試飲販売できるミルクスタンドを出店します。	各種イベントに出店し、試飲販売により PR を実施した。 ※R2 年度からは新型コロナウイルスの影響により中止	◎
JR や道の駅等でのお試しショップや自動販売機の設置	お試しショップや自動販売機を設置し、牛乳や乳製品が目に見える機会を増やします。	検討・未実施 ※R3 年度に那須塩原駅観光案内所にて地元産牛乳を無料配布する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止	△

基本目標4 魅せる場をつくる

戦略9 魅せる場の創出

取組	取組内容	実施内容	評価
那須高原ミルク街道加盟店と連携したイベントの開催	「那須塩原市牛乳の日」などで、那須高原ミルク街道加盟店と連携し、牛乳、乳製品の消費拡大及び普及啓発を実施します。	畜産フェアや明治の森田園ウォーキングイベント等で那須高原ミルク街道と連携し、消費拡大を図った。	◎
どこでも飲める牛乳蛇口の開発	市民や観光客が行き交うJR 駅、道の駅等に、蛇口をひねれば牛乳が飲める場の設置を検討します。	栃木県立那須清峰高等学校と新生酪農(株)と連携し、ミルクバーを製作。各イベント時に使用し、生乳生産本州一の有効な演出を行えた。	◎
八郎ヶ原放牧場の利活用	放牧場を生かした観光や体験の場としての利用を検討します。	民間によるスノーモービル利用やビジターセンターによるスノーシュー利用で、観光地としての有効利用を図った。	◎
仮称「生乳生産本州一の酪農館」の整備	廃校や空き家等を活用し、酪農の歴史や農機具の展示、牛乳が試飲・飲食できる酪農館の整備を検討します。	検討・未実施	△
公共交通機関を利用した牛柄ラッピングによる宣伝	新幹線やバス等の公共交通機関と連携し、牛柄に塗装した乗り物を走らせることで、酪農のまちとしての定着を検討します。	検討・未実施 ※新幹線やバス等の公共交通機関と連携し、牛柄に塗装した乗り物を走らせることで、酪農のまちとしての定着を図ったが、実施に至らなかった。	△

基本目標5 安心して働ける場をつくる

戦略10 担い手確保への支援

取組	取組内容	実施内容	評価
新規就農者の参入を促進	新規就農者の参入を促進するため、実地研修の受入先の確保等、酪農研修体制の在り方を検討します。	R1年度に担い手支援係を設置し、新規就農者の参入促進を図った。 R2年度には栃木県として5年ぶりの新規酪農者が誕生した。	◎
経営技術支援体制の構築	技術講習会や酪農OBによる技術継承等、酪農の経営技術支援体制の在り方を検討します。	戸田協議会を民間のキャトルセンターや研修の場として活用することを1つの目的として施設整備の補助をした。	◎

戦略11 生産基盤整備への支援

取組	取組内容	実施内容	評価
畜産クラスター事業への取組支援	国県及び酪農協組合と連携し、畜産クラスター事業への取組を支援します。	利用協議会数：4協議会 ①鍋掛クラスター協議会 (H28～H29、R1～R2) ②百村の郷畜産クラスター協議会 (H28～H29) ③寺子クラスター協議会(H30) ④戸田協議会(H30)	◎
畜産担い手育成総合整備事業への取組支援	国県及び酪農組合と連携し、畜産担い手育成総合整備事業への取組を支援します。	○取組主体：酪農：11戸、和牛：2戸 ○事業期間：H29～R4 ○事業内容： 草地造成改良31.19ha 草地整備改良19.49ha 施設用地造成整備5.78ha 道路整備500m 家畜保護施設整備15,500㎡(12棟) 飼料調整貯蔵施設整備1,050㎡(1棟) 水質汚染防止施設4箇所 家畜排せつ物処、理施設整備6,280㎡(9棟)	◎

戦略12 経営環境改善への支援

取組	取組内容	実施内容	評価
乳用牛群改良の促進	牛群検定への参加を促進するため、各牛群検定組合の活動事業費の一部を助成します。	黒磯牛群検定組合、箒根牛群検定組合、那珂川牛群検定組合に加入する組合員数に対し補助金を交付した。 《加入組合員：合計戸数》 H29：101戸 H30：101戸 R1：96戸 R2：92戸 R3：91戸	◎
優良雌牛の導入支援	生産能力の高い優良雌牛を導入する場合、その導入費用の一部を助成します。	生産能力の高い優良雌牛を導入する費用の一部を助成した。 《導入頭数》 H29：32頭 H30：46頭 R1：43頭 R2：50頭 R3：71頭	◎

<p>家畜自衛防疫(予防接種助成)の強化</p>	<p>家畜自衛防疫体制の強化を図るため、伝染性疾病対策費(予防接種)の一部を助成します。</p>	<p>家畜自衛防疫体制の強化のため、予防接種費の一部を助成した。</p> <p>《接種頭数》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦：アカバネ病 ㊧：IBR単味以外 1,809 頭 ㊨：ブルセラ、結核、ヨーネ病検査 ㊩：豚 PED 予防接種 ㊪：ヨーネ病検査</p> </div> <p>【H29】 ㊦：3,369 頭、㊧：1,809 頭 ㊨：2,068 頭、㊩：6,850 頭</p> <p>【H30】 ㊦：2,025 頭、㊧：1,914 頭 ㊨：3,171 頭、㊩：3,100 頭</p> <p>【R1】 ㊦：1,965 頭、㊧：962 頭 ㊨：6,078 頭、㊩：200 頭</p> <p>【R2】 ㊦：1,830 頭、㊧：1,969 頭 ㊪：7,149 頭</p> <p>【R3】 ㊦：870 頭、㊧：2,344 頭 ㊪：3,243 頭</p>	<p>◎</p>
<p>自給飼料(飼料用作物)の利用拡大</p>	<p>稲 WCS や飼料用米等の利用拡大を図るため、畜産農家と耕種農家とのマッチング機会を提供します。</p>	<p>奨励金交付等の推進、農業委員会や農業公社を通じての農地貸借により、自給飼料の生産及び農地集約に努めた。</p>	<p>◎</p>
<p>八郎ヶ原放牧場による放牧の推進</p>	<p>放牧による乳用牛の健全育成を図るため、八郎ヶ原放牧場の利用を推進します。</p>	<p>放牧事業の実施</p> <p>《入牧頭数》</p> <p>H29 年度：56 頭 H30 年度：51 頭 R1 年度：53 頭</p> <p>※R2 年度から鹿の食害により休牧中。放牧を再開するため、八郎ヶ原放牧場活性化検討会を設立し、食害対応について検討している。</p>	<p>◎</p>
<p>塩原堆肥センターの利用促進</p>	<p>家畜ふん尿による資源循環型農業を実現するため、塩原堆肥センターの利用促進を図ります。</p>	<p>堆肥化事業の実施</p>	<p>◎</p>